

# ディスクロージャー誌 2014

広島ゆたか農業協同組合

② 商品有価証券種類別平均残高	
③ 有価証券残存期間別残高	
(5) 有価証券等の時価情報等	
① 有価証券の時価情報等	
② 金銭の信託の時価情報等	
③ デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引、有価証券関連店頭デリバティブ取引	
2. 共済取扱実績	125
(1) 長期共済新契約高・長期共済保有高	
(2) 医療系共済の入院共済金額保有高	
(3) 介護共済の介護共済金額保有高	
(4) 年金共済の年金保有高	
(5) 短期共済新契約高	
3. 農業関連事業取扱実績	127
(1) 買取購買品（生産資材）取扱実績	
(2) 受託販売品取扱実績	
(3) 農業倉庫事業取扱実績	
(4) 利用事業取扱実績	
(5) 加工事業取扱実績	
4. 生活その他事業取扱実績	129
(1) 買取購買品（生活物資）取扱実績	
(2) 介護事業取扱実績	
5. 指導事業	129
<b>IV 経営諸指標</b>	
1. 利益率	130
2. 貯貸率・貯証率	130
3. 職員1人当たり指標	130
4. 1店舗当たり指標	131
<b>V 自己資本の充実の状況</b>	
1. 自己資本の構成に関する事項	132
2. 自己資本の充実度に関する事項	136
3. 信用リスクに関する事項	138
4. 信用リスク削減手法に関する事項	142
5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	144
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	144
7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項	144
8. 金利リスクに関する事項	145
<b>【JAの概要】</b>	
1. 機構図	146
2. 役員構成（役員一覧）	147
3. 組合員数	147
4. 組合員組織の状況	148
5. 特定信用事業代理業者の状況	148
6. 地区一覧	148
7. 沿革・あゆみ	148
8. 店舗等のご案内	149
法定開示項目掲載ページ一覧	150
自己資本比率の算定に関する用語解説一覧	151

## あいさつ

平成26年4月1日より消費税が8%となるにあたり、年明け以降業界では値上がり前の駆け込み需要が話題となりましたが、当JAでも春肥の注文が多くあり、年々減少を続けていた肥料の供給が前年比300万円近く増加となりました。

平成25年度はみかんの表年にあたり、取扱高は前年比150%超となりましたが、13年前と比べると半分以下となっており、担い手対策や荒廃園地の再生等取り組んでまいりましたが生産量の減少傾向に歯止めがかかっていないこともまた厳しい現実であります。選果機においては老朽化が進み、急な故障により出荷者の方に度々ご迷惑をお掛けする事態があり、平成26年度においてこのようなことが起きないように一部の更新・修理をせざるを得ない状況にあります。

計画としては、全選果を大長選果場のみで行う、それに伴い選果機器の更新や選果ラインの補修等を行う予定でございます。

当JAにおいて、今回の一部更新並びに補修は、26年度以降の運営に大きな影響を与えるとは認識していますが、将来予定されている県域での統合選果場までのつなぎとしての措置であり、最小限の経費で更新・補修を行ってまいる所存です。

尚、この更新により大長選果場の出荷者の皆様も上島選果場と同様に1・2級込みで出荷できるようになり、出荷の祭に係る負担も軽減できるのではないかと考えております。

柑橘の取扱量が減少していく中、それに伴い購買事業も縮小を続けています。これを受けて、25年度より経済事業プロジェクト会議を立ち上げ、経済事業全般に渡って精査・検討を重ねております。

今後、当JAの経営を健全に保つためには事業所の統廃合は避けて通れない、と会議において認識しており、26年度中に事業所統廃合案及び統廃合した場合のフォロー策をとりまとめ、27年度下期実施を目途に構想を協議しております。

現在、「政府の規制改革会議」や「産業競争力会議」などで農協のあり方が議論されています。戦後70年が経ち、他産業に比べて農業分野が衰退していく中で、かつてのように農業者のほとんどが農協の旗印の下に結集するという時代ではなくなつたことは残念ながら認めざるを得ません。しかし、過疎と高齢化が進む地域の中にあつて、農業の進行は行政と農協とが両輪となって進めていかなければ、成立しないという点もまた敢然たる事実であります。まず農協の経営改善を行い、独立し安定経営して行くことが地域の農業振興の出発点であると私どもは確信しています。そして、地域の農業振興には課題が山積みしていることを認識した上で、捲まずたゆまずこの方針を実行していくこととお誓い申し上げます。

広島ゆたか農業協同組合  
代表理事組合長 横本 正樹

## 1. 経営理念

- J A広島ゆたかは、農業振興を通じて、「食」と「農」と「緑」を守り、かけがえのない自然を次世代に引き継ぎます。
- J A広島ゆたかは、地域のみなさまとともに生き、地域のみなさまとの共感の中で、心ふれあう地域づくりに取り組みます。
- J A広島ゆたかは、高い倫理観と責任感を持ち、地域社会に貢献できる事業と組織づくりに取り組みます。

## 2. 経営方針

### ◇営農・経済事業部門

地域の環境と実態に即した農業振興に努め、多様な担い手づくりと多彩な産地づくり、消費者の視点に立った安全・安心な農畜産物の生産と提供に取り組みます。当 J A では、市町村と連携し、認定農業者の育成や集落営農の推進、農業生産法人や特定農業団体の設立の推進を図ります。さらに、販売力の強化と営農経済渉外員の活動の充実、流通コストの低減等に取り組み、農家所得の向上を図ります。

### ◇信用事業部門

組合員・利用者の満足度向上を目的とした事業展開を図り、「農業と地域に貢献できる地域金融機関」として、より「便利」でより「安心」な J A バンクをめざします。この目標の達成に向け、信頼される J A を徹底的に追求した活動を展開し、収益力の向上と顧客基盤の拡充を図るとともに、事業推進体制の強化に取り組みます。

### ◇共済事業部門

J A 共済は、地域に根ざした農業協同組合の共済事業として、組合員等利用者一人ひとりのライフサイクルやライフスタイルに応じた「ひと、いえ、くるま」の生活総合保障を提供し、地域における満足度・利用率 NO.1 をめざします。

## 3. 経営管理体制

### ◇経営執行体制

当 J A は農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

組合の業務執行を行う理事には、組合員の各層の意思反映を行うため、青年部や女性部などから理事の登用を行っています。また、信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第 30 条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

## 4. 事業の概況（平成25年度）

### ◇ 全体的な概況

#### 1. 組合の事業活動の概況に関する事項

平成25年度におきましては、昨年引き続き全国統一の動きの中で聖域なき関税撤廃を原則とするTPPへの抗議行動を行い、職員協訓であります誠心誠意事にあたる、を経営の柱とし事業活動を展開いたしました。

輸入される食料品に対して、安全・安心な食料品（柑橘類）の生産と販売に努めました。

こうした中、財務状況は、自己資本比率15.63%（前年度15.28%）と向上しましたが、不良債権につきましては、組合員の皆様にご協力をいただきましたが、その比率は全貸付金に対し2.39%（前年度2.02%）となりました。

支所の一部を事業所とし、その体制づくりも軌道に乗りつつあります。また、職員教育・職員研修にも取り組み、健全経営に向けて、ALM委員会・コンプライアンス委員会を開催し、またリスク管理担当部署も新設し、事務リスク軽減に向けた取り組みに着手いたしました。

経営的には、柑橘の表年による販売事業の増収もあり、当期剰余金としては39,799千円を計上することができました。

組合員・地域住民の皆様の心温まるご支援とご協力に対しまして、衷心より感謝とお礼を申し上げます。

#### 2. 対処すべき重要事項

JA広島ゆたかにおける経営の原点であり職員協訓でもあります誠心誠意ことにあたる、の標語精神を職務遂行の基本として、農家所得の向上、経営の健全化に努める中で、コンプライアンス、個人情報保護法を遵守し、協同組合として適切な利益の確保と、経営財務の健全化に努めることが重要な課題であります。

そのためにも、風通しの良い、組合員・地域住民に愛され、信頼される活力ある職場づくりに努めます。

### □ 金融事業

平成25年度は昨年と同様に定期積金「熱闘応援団！！2013」と定期貯金の「当たってええJAん」のキャンペーンを取扱いましたが、どの店舗においても伸び悩み 前年対比で少し下回る結果となりました。

また、お客様のニーズに応じたアドバイスを行うことで、お客様の満足度の向上ができるよう年金相談会や県内統一の住宅ローン相談会を開催しました。

しかしながら、当JAの管内では目に見える「アベノミクス」効果もなく、貸付金においては、新規借入者より返済による減少の方が多く、平成25年度も伸び悩んでしまいました。貯金の減少につきましては、主として相続による地区外への流出に歯止めがかからないのが現状です。

今後は、お客様へのきめ細やかなアプローチ提案などコミュニケーションを図りながら、よりいっそう地域に密着したJAになれるよう努力して推進してまいります。

### □ 共済事業

当JA管内は、急激な過疎化と少子高齢化の中、長期共済の保有高減少に歯止めが利かず、内容的には大変厳しいものとなっております。

しかしながら、今年度より新しく出来た「介護共済」が順調に伸び、また短期自動車共済は例年と同様に推移した結果、事業計画推進目標180万ポイントに対して180万6千ポイントで達成率100.3%の実績を上げる事ができました。

お礼を申し上げますとともに、今後ともJA共済に変わらぬご愛顧を宜しくお願い致します。

### □ 営農販売事業

販売事業においては、平成25年度産の温州みかんは豊作年に当たるうえ、後半の果実肥大により例年に比べ大玉果が多く取扱い数量は計画を上回りました。

しかし、12月中旬から値崩れを起し、年明けも長い期間価格低迷が続きました。中晩柑橘も温州みかんと同様な傾向で、数量増で単価安の品目が多く、特にデコポンは全国的に安値での販売展開となりました。